

さとうきびスマート農業の課題と普及上の対応策を整理しました。

さとうきびスマート農業実証プロジェクト UFSMA の実践を通して、現時点における課題とそれらの対応策をとりまとめた「**ウフスマ・プロジェクトで見えてきたさとうきびスマート農業課題と普及に向けた対応策**」が、Alic 独立行政法人農畜産業振興機構の情報誌「砂糖類・でん粉情報 2021.9」に掲載されました。

- 1) まず、現状のさとうきびスマート農業技術を5区分（**ロボット系、自動化・リモート化施設系、ドローン系、情報系Ⅰ、情報系Ⅱ**）に分類し、ウフスマの実証課題をそれらに合わせて整理しました。
- 2) 次に、現状の課題を技術区分別に整理し、それぞれの対応策を述べました。すべての技術区分に関連するキーワードは「**効率的運用**」と「**メンテナンス**」です。これらの重要性はいくら強調してもしすぎることはありません。
- 3) これらの技術的観点に加え、生産者から見たスマート農業導入上の課題について整理しました。UFSMA プロジェクトに関わった生産者から寄せられた「スマート農業は農家だけではできない」という的確な指摘を踏まえ、技術区分毎に導入の難易度を整理しました。
- 4) 最後に、課題への対応策について UFSMA プロジェクトの試案を述べました。

さとうきびについては、**スマート農業技術自体がまだひよこの段階**であり、その中での課題の分析は勢いその範囲をでないものに止まっていることは否めません。とは言え、本質の把握は十分にできたのではないかと思います。

詳細については、同機構のホームページ（<https://www.alic.go.jp/index.htm>）をご覧ください。